

○ E Mを使用した『RMAN バックアップ』の実行方法

RMAN バックアップのファイル出力先ディレクトリ（保存先フォルダ）

RMAN スクリプトのソースコード表示

RMAN によるバックアップ操作を行うには、

※ E MDC へのログインは、SYSDBA として行うこと

E MDC → [可用性] タブ → バックアップ／リカバリ・セクションの管理・サブセクション中の「バックアップのスケジュール」

／ [可用性] タブ \

バックアップ／リカバリ

管理

バックアップのスケジュール



バックアップのスケジュール

推奨バックアップ

推奨バックアップのスケジュール

カスタマイズバックアップ

カスタマイズバックアップのスケジュール

☒ データベース全体

☐ 表領域

☐ データファイル

☐ アーカイブ・ログ

☐ ディスク上のすべてのリカバリ・ファイル

ホスト資格証明

OS ユーザー名とパスワード

ユーザー名

Administrator

パスワード

.....



【推奨バックアップを選択した場合】、

ステップ 1/4 で、バックアップ・メディアを指定します

ステップ 2/4 で、1 回目フル、以降は増分の操作でフラッシュ・リカバリ領域への設定が固定で行われます。

ステップ 3/4 で、スケジュール時刻を指定します
バックアップモードは、オフラインに固定されます。対象は、データベース全体です。

ステップ 4/4 で、ジョブの発行 ボタンをクリックしてスケジュール登録します。

【カスタマイズバックアップを選択した場合】、

ステップ 1/4 で、バックアップタイプ（全体 or 増分）
バックアップモード（オンライン or オフライン）
拡張指定（アーカイブ・ログのバックアップ、不要になったバックアップの削除） を指定します

ステップ 2/4 で、ディスクバックアップのタイプ（バックアップ・セットに一括 or 個別イメージファイル）、テープへのバックアップ、そして、**現行の設定の上書き** ボタンクリックで、ディスクの**バックアップ先フォルダ**を指定します

ステップ 3/4 で、スケジュールの JOB 名、スケジュール時刻、繰返し を指定します

ステップ 4/4 で、**ジョブの発行** ボタンをクリックしてスケジュール登録します。

RMAN スクリプト編集 ボタンをクリックすると、RMAN スクリプトのソースコードを直接編集することも可能です

RMAN におけるバックアップ・ファイルの保存先フォルダの指定

アーカイブ・ログ・ファイルの出力先

EMDC → [可用性] タブ → バックアップ／リカバリ・セクションの設定・サブセクション中の「リカバリ設定」

[可用性] タブ／

バックアップ・リカバリ

設定

リカバリ設定

適用

メディア・リカバリ

☒ ARCHIVELOG モード

ログのアーカイブファイル名の書式

ARC%S_%R.%T

%s : ログ順序番号、%t : スレッド番号

%S : 左ゼロ埋めしたログ順序番号、

%T : 左ゼロ埋めしたスレッド番号

アーカイブ・ログの保存先

割当て制限 (512B)

1.

D:¥ARC_LOG¥Output_Dir1

400

2.

D:¥ARC_LOG¥Output_Dir2

100

フラッシュ・リカバリ

コントロール（制御）ファイルのバックアップ保存先

ALTER DATABASE BUCKUP CONTROLFILE TO
'ドライブ:¥ディレクトリパス¥ファイル名' ;

※ ここで指定されたフォルダを、リストア元フォルダに指定する

RMAN バックアップにおけるファイル出力先（保存先フォルダ）

基本は、フラッシュ・リカバリ・エリアのファイルは出力されるが、JOB の設定で変更することも可能

変更方法は、このドキュメントの 2 ページ目の【カスタマイズバックアップを選択した場合】のステップ 2/4 で、ディスクのバックアップ先フォルダを指定します

ステップ 2/4 で、現行の設定の上書き ボタンクリックで、ディスクの**バックアップ先フォルダ**、ディスクバックアップのタイプ（バックアップ・セットに一括 or 個別イメージファイル）、テープへのバックアップを指定します